

A Partnership Development Process Assessment Scale for Public Health Nurses in Japan

重松, 由佳子

<https://doi.org/10.15017/1500547>

出版情報：九州大学, 2014, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏名	重松 由佳子
論文名	A Partnership Development Process Assessment Scale for Public Health Nurses in Japan (日本における保健師の地域組織とのパートナーシップ構築プロセス評価尺度の開発)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 中尾 久子 副査 九州大学 教授 大池 美也子 副査 九州大学 教授 藤田 君支

論文審査の結果の要旨

近年の地域における健康問題の複雑化に対応するためには、行政機関の活動だけでは限界があり、地域組織との協働が不可欠となっている。日本の保健師は、地域組織との既存の関係を発展させ、協働に向けたパートナーシップ構築活動を行っている。しかし、そのパートナーシップ構築活動の過程は明確にされていないため、活動の評価ができていない現状がある。このことは、保健師の地域組織との関係性構築の困難さの要因の一つとなっている。本研究は、保健師の地域組織とのパートナーシップ構築プロセスを評価する尺度（Partnership Development Process Assessment Scale：以下、PDPA尺度）の開発を行い、その尺度の信頼性および妥当性を検討したものである。

PDPAの開発は、三段階のプロセスを経ている。第一段階では、保健師10名に半構成的面接を行い、インタビューデータを質的帰納的に分析し、尺度項目案を作成した。第二段階では、尺度項目案の内容の妥当性の検討および表現の洗練に向けて、専門家に対する質問紙調査を行った。第三段階では、全国1,742市町村の保健師に郵送法による自記式質問紙調査を行い、PDPA尺度の信頼性・妥当性を検討した。

第一段階、第二段階を通して、30項目の尺度項目原案が得られた。第三段階における項目分析、因子分析を経て、4因子、23項目からなるPDPA尺度を開発した。尺度の因子構造は「健康課題に対する役割共有にむけた取り組み」「パートナーシップ推進に向けた基盤整備」「パートナーシップの評価」「健康課題に関する情報の発信」であり、4因子の累積寄与率は58.4%であった。折半法、クロンバック α 係数の算出による信頼性の検討の結果、十分な信頼性が確認された。また、基準関連妥当性のため既存の尺度との相関関係を算出したところ、適度な相関関係が得られた。

以上の結果より、PDPA尺度は、信頼性、妥当性を有する尺度であることが示された。本尺度は、日常の役割共有を行いながら、活動の質向上への取り組みや活動機会の拡大等の基盤整備を行うという、日本の保健師の活動展開の特徴を踏まえた尺度であり、この評価尺度の開発の意義は高い。

審査を行い、研究の位置づけ、関連する研究、研究に関する考察を確認し、概ね適切な回答を得たので、主査および副査の合議の結果、本論文が博士（看護学）の学位に十分に値するものであると認めた。